



宇宙特急便



旅の途中(創業にまつわる話あれこれ)②⑥

銀行の紹介で町の商工会に行く。担当のNさんからこやかな表情で公庫のマル経融資を使いましょうと言われすぐ申込をした。事故の内1件がこじれ調停に移る(保険会社の顧問弁護士が学生時代の同期で心強かった)。調停控室でこの弁護士に「このままでは倒産してしまうかもしれない・・・」と呟いた。その後調停部屋から弁護士が戻ってきて言う。「倒産してしまっちは元も子もない、提示した条件を呑むと言ってる。どうする?」創業間もない会社と交渉を続けても得るものがなくなるかもしれない、と不安を覚えたらしい。情けない話だが絶体絶命の窮地から抜け出たみたいでほっとした気持ちになったことを覚えている。小さいながら興した会社への責任の重大さとそれにきちんと向き合う覚悟を思い知った。



眠っていた標準的な運賃・運送約款の目覚め

20代半ば頃、まだ復員した人がトラックドライバーとして働いていた。生きて帰った者の責任感、仕事へのこだわり、固い自尊心。年式の古いトラックでも貴重品の扱いでタイヤやバッテリー消耗部品への気遣いはたいへん丁寧で神経質。今では信じられないがトラックドライバーは職人として尊重され経済的にも一家の大黒柱だった。又、運送会社という取引先に運送約款をフル適用していた。ある時、叩き上げの役員がこんなことを言った。「並のサラリーマン以下の安い賃金もろー(もらって)とったんじゃ朝から晩までこぎゃー(こんな)な仕事をやり切るような人間はおらん(いなく)ようになるでえ・・・」その通り運送業界はペンペン草さえ生えない場所になってしまった。新たな約款告示が人が人らしく生活できる始まりになるようにやれることはなんでもやってみようと思う。



誕生日おめでとう。

18日 F・S
29日 T・S



二十四節気

8日寒露(かんろ)
秋が深まり野草に冷たい露(つゆ)がむすぶ

23日霜降(そうこう)
霜(しも)が降りる頃

日の出 5:46
日没 17:13

今月のひとこと

「あなたにもできますよ」の言葉がお為ごかしに聞こえるスマホ入力。じっくり考えたり、深く話しあったりすることより素早い操作の良し悪しが評価される時代。ITの手順指示に従って生きる新たな奴隷社会の予感。

